

## 編集後記

はじめに、『芸術世界』東京工芸大学芸術学部紀要第14号に論文・作品をご投稿くださいました先生方に、厚くお礼申し上げます。前年度より4点多く掲載できましたこと、心より感謝致しております。またテーマの幅広さと個性、バラエティーに富んだ内容等を、編集者としてひそかに自負しております。

ところで先日、本学の「芸術学部卒業・大学院修了制作展2008」を見学してまいりましたが、その中に、プリンターからあふれ出るペーパーを前にして立っている学生がいました。そのペーパーは何回も印字され、真っ黒でした。一体これは何を表現しようとしているのですか、とたずねてみると、こんな返事が返ってきました。「情報にうずもれた僕たちは、毎日、どのように情報を取捨選択するのかを考えなければならず、それだけで疲れてしまうのです。もし情報のほとんどが必要のないものだとしたら、僕らは空しい時間の使い方をしていないのでしょうか。世界の流れ、世の中の変化、社会の進展に遅れまいと必死に情報を追い求めているのですが、ただ情報の山に迷い、情報の海に漂っているだけではないか、そんな空虚感を表現したかったのです」。現代の一面が端的に指摘されているように感じました。

実はこの問題に、今回表紙の絵と「表紙のことば」をお願いしました古川タク先生が、鋭いメッセージを与えてくださっているのではないのでしょうか。膨大な情報に溺れた現代人に、世界中の皆が一緒になって情報を追いかけることなどないじゃないか。もっとあまのじゃくがいてもいいのではないか、情報に背を向けてみたっていいんじゃないの。さらにはしばらく鎖国状態をしたっていい、せわしさを離れ、情報から独立した「引き籠り」も捨てたものではない……。新鮮な角度からの、すばらしい提言となっているように思われます。

現代は情報に乗り遅れて孤独におちいることを極度に恐れる学生が多いのですが、私はそんな学生に、むしろ孤独に徹して本当の自分を見出すこと、孤独こそが創作の原点、孤独をかみしめることなくして本当のコミュニケーション、グローバリズムなどないのではないかと、いつも話してきましたが、今回、意を強くしました。いずれ「情報と孤独」などのテーマで特集を組み、さまざまな分野の先生方にご執筆していただくことも意味のあることではないかと感じました。

平成20年3月 紀要編集委員長 加藤智見

## 芸術世界

東京工芸大学芸術学部紀要 Vol. 14

2008年3月31日 発行

編 集	東京工芸大学芸術学部 紀要編集委員会
発 行	東京工芸大学芸術学部 〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 Tel. (03) 3372-1321 Fax. (03) 3372-1330
印 刷	有限会社 啓文堂 松本印刷 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12